

「みやぎ環境税」 未来のために今できること

～平成28年度実施事業とその成果～

県は、宮城の豊かな環境を守り、次の世代へ引き継いでいくために、平成23年度から「みやぎ環境税」を導入し、さまざまな事業に取り組んでいます。

今回は、平成28年度に実施した主な事業の内容をお知らせします。

どのような事業を実施しましたか？

県は、環境問題に対応するため、①低炭素社会の構築に向けた取り組み、②森林の保全の取り組み、③生物多様性などの自然環境を守り育てる取り組み、④そうした取り組みを支える人材の育成など4つの視点から「新みやぎグリーン戦略プラン」として施策をまとめ、これを踏まえ44の事業に取り組みました。そのほかに、市町村向け事業として、みやぎ環境交付金事業を実施しました。

各視点ごとに、実施した主な事業を以下に掲載します(図1)。

図1 / 平成28年度 実施事業の概要

視点1 低炭素社会の推進 15事業 / 5億6190万円

環境配慮と経済発展が両立する地域社会を構築するため、事業者や家庭における積極的な二酸化炭素の削減に向けた取り組みを推進しました。

- 主な事業**
 - 新エネルギー設備導入支援事業 / 7294万円
太陽光発電などの自然エネルギー利用設備を導入する事業者に対する補助
 - スマートエネルギー住宅普及促進事業 / 2億1421万円
家庭用の太陽光発電システム、蓄電池、エネファーム、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(※1)の導入に対する補助



視点2 森林の保全・機能強化 9事業 / 6億8895万円

二酸化炭素の吸収機能など多面的機能を持つ森林や里山の管理・保全および森林資源活用に向けた取り組みを推進しました。

- 主な事業**
 - 温暖化防止間伐推進事業 / 1億5758万円
手入れ不足により生育が滞り、二酸化炭素吸収機能や土壌保全機能の低下が懸念される人工林の間伐や森林作業道の整備に対する補助
 - 木質バイオマス広域利用モデル形成事業 / 2269万円
森林内で未利用となっている残材などの木質バイオマス(※2)の搬出支援、木質バイオマスボイラー、まき・ペレットストーブなどの導入に対する補助



視点3 生物多様性・自然環境の保全 12事業 / 2816万円

生物多様性を育む豊かな自然環境の保全・再生のための取り組みを推進しました。

- 主な事業**
 - 伊豆沼・内沼よみがえり在来生物プロジェクト事業 / 788万円
ゼニタナゴなどの在来生物の生息確保対策、オオクチバスなどの外来生物の駆除
 - 環境緑化推進事業 / 300万円
市町村や地域住民が行う植樹活動に対する支援



視点4 環境共生型社会構築のための人材の充実 8事業 / 2259万円

持続可能な地域社会の構築に貢献する人材の育成や環境教育の一層の充実を図る取り組みを推進しました。

- 主な事業**
 - 児童・生徒のための環境教育推進事業 / 48万円
小学校における環境教育出前講座の実施など
 - こもれびの森「森林科学館」改修事業 / 298万円
環境教育や人材育成の拠点となる森林科学館の施設改修

※1 「快適な室内環境」と「年間で消費する住宅のエネルギー量が正味でおおむねゼロ以下」を同時に実現する住宅
※2 伐採した材や、木くずなど木材から生まれた再生可能な有機性資源のこと

どのような実績・成果がありましたか？

1 二酸化炭素を削減しました

家庭用の太陽光発電システムやエネファーム(燃料電池)の導入、既存住宅の断熱改修、事業者用の自然エネルギー設備(太陽光発電・風力発電・バイオマス発電など)の導入などを支援することにより、約10万8461トンの二酸化炭素排出を抑制しました。

28年度のCO₂削減量 10万8461t

平均的な家庭約2万2000世帯分の年間排出量とほぼ同じ量を削減しました。
=塩竈市の世帯数



2 森林を整備し、森のはたらきを高めました

二酸化炭素吸収機能を高めたり、降雨などによる山崩れや林木の流出を防止したりするため、606ヘクタールの森林で間伐を実施するとともに、林地から9659立方メートルの残材などを搬出し、木質バイオマス燃料などとして活用しました。

森のはたらき



3 生物多様性を保全しました

ラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼において、生物多様性や自然環境を保全するため、外来魚のオオクチバスやブルーギルを822匹捕獲した結果、飛来する水鳥が増加するなどの効果がありました(図2)。

また、地域の生態系への影響や農業被害を抑制するため、第二種特定鳥獣管理計画に基づき、増えすぎたニホンジカやイノシシを168頭捕獲しました。

4 被災地のまちを緑化しました

東日本大震災後の被災地におけるま

5 小学校で温暖化の出前講座を開催しました

ちづくりなどを支援するため、地域の緑化活動に用いる緑化木を1786本配布しました。

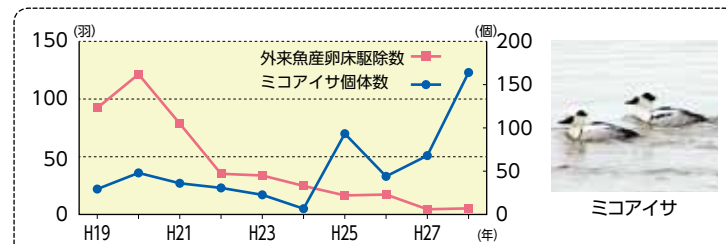
子どもたちから環境に配慮する意識を育むため、地球温暖化の影響を学ぶ環境教育出前講座を小学校19校で開催しました。

基金の残高はどのくらいですか？

「みやぎ環境税」は、県民税均等割の超過課税で個人は年額1200円、法人は標準税率の10%相当額を徴収し、その使い道を明らかにするため「環境創造基金」(以下「基金」)に積み立て、課税目的に沿った事業にのみ使用しています。

平成28年度は、税収と資金運用などで約16億9183万円の収入がありました。一方で、事業の実施に約16億157万円を支出しました。この結果、平成28年度末の基金残高は、前年度末の6億8081万円から9025万円増加し、7億7106万円となりました。基金の残高は、平成29年度以降の事業に引き続き活用していきます。

図2 / ミコアイサで見る伊豆沼の自然環境



ミコアイサは日本で越冬する小型の水鳥で、環境復元の指標生物。外来魚が減少し、食物となる在来小型魚類やエビ類が増加したため、飛来数が増えました!

問い合わせ先

みやぎ環境税に関するお問い合わせ先

◎環境政策課
☎022(21)2601
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kankyos-s/

◎環境税の仕組みに関するお問い合わせ先

◎県税務課
☎022(21)2323
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/zeimu/